専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.453

専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

# 女子 準優勝

## 9年ぶり頂点に一歩及ばず

全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）＝7月4～7日、大阪府・大浜だいしんアリーナ

男女ともに関東王者として臨んだ今大会。女子は盤石の戦いで9年ぶりの優勝へあと一つに迫ったが、決勝で筑波大に敗れて準優勝。男子は、3大会ぶりに2回戦を突破したものの準決勝で日大に敗れた。

女子決勝は、初戦のシングルスで主将の出澤杏佳（文4・大成女子高）が敗れるまさかの展開となった。「勝たなければいけなかった」と出澤。ダブルスで出澤・首藤成美（文1・希望が丘高）ペアで一矢報いたものの、頂点まであと一歩及ばなかった。

出澤は初のインカレ決勝を振り返り、「優勝しか目指していなかったのでとても悔しい。しかし、リーグ戦の時よりもチーム力が向上し、戦えるチームになったことが良かった」と語った。（河上明来海・文4＝写真も）

出澤（右）・首藤ペアの勝利に沸く部員たち＝決勝

## 出澤 単複2冠達成

関東学生選手権

6月24～28日、埼玉県・所沢市民体育館で行われた関東学生卓球選手権大会では出澤が躍動。女子シングルスで3年ぶり2回目の優勝を果たしたほか、首藤とのコンビで女子ダブルスも制し、単複2冠を達成した。

男子は、ダブルスで野田・木塚ペアが準優勝。シングルスでは野田がベスト4と好成績を残した。

男子は、決勝進出こそならなかったものの、チームには充実感が漂った。「やれることはやり切っての結果。悔いの無いベスト4」と、主将としてチームを束ねる野田颯太（文4・育英高）はすがすがしく結果を受け止めた。

今大会では、主将として奮闘した野田に加え、フレッシュな力も台頭した。木塚陽斗（文1・明豊高）と溜大河（経済1・静岡学園高）が全試合に出場してチームに貢献。野田も「頼もしい存在」と太鼓判を押した。来年こそ頂点奪還のため、強者の誇りを胸に鍛錬を積んでいく。（河上＝写真も）

チームをけん引した野田

男子

## 充実のベスト4

# 福住4位

日本アマチュアゴルフ選手権＝6月25～28日、兵庫県・廣野ゴルフ倶楽部

アマチュアゴルファーの日本一を決める大会で、福住修（経営4・明徳義塾高）がトップと2打差の5アンダーで4位と健闘した。

第4ラウンドで逆転を狙うも雨天中止に。福住は「天候を見越してプレーする必要があった」と課題を語ったが、「難易度の高い、実力が試されるコースだったこともあり、いい経験になった」と前向きに語った。（遠藤沙来・国コミュ1）

## 8位に終わる

全国大学対抗戦

ゴルフ部男子は、団体の大学日本一決定戦、全国大学ゴルフ対抗戦（6月19～21日、北海道）に出場。小田祥平（文3・開志国際高）、坂田一真（経営3・千葉黎明高）が好スコアをマークし、初日2位タイと好スタートを切ったが、2日目以降はスコアを落とし、8位タイに終わった。

# 女子エペ 課題残る準優勝

準優勝を遂げた女子エペの出場メンバー
撮影＝竹田一爽（文3）

## 男子は3位

全日本学生フェンシング王座決定戦＝6月10日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場

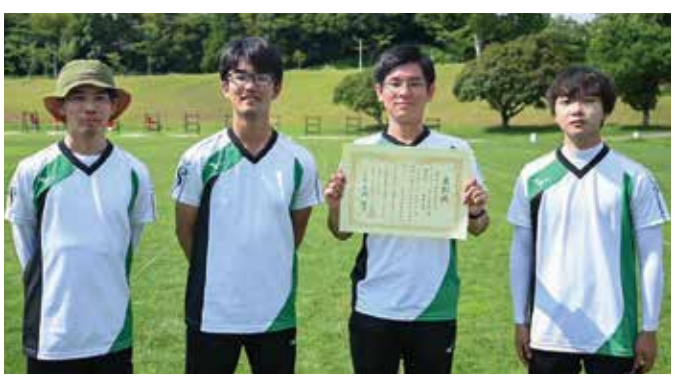
専大は男女ともにエペに出場。女子は決勝で宿敵・明大に敗れて準優勝。男子は準決勝で慶大に敗れたものの、3位決定戦で中大を45―28の大差で下し、3位となった。

女子主将の齋藤華南（経済4・秋田商高）は、「個人戦の延長のように

なってしまい、団体戦の戦い方ができなかった」と課題を話す。また、明大について「個の力は自分たちよりも上。今後も明大との試合が山場となる。いろいろなことに取り組み、次は勝ちたい」と決意を新たにした。

男子は、幅広い学年のメンバーが出場。「チームとして強くなった。成長を感じた」とチームを率いる吉成海之亮（法4・栃木商高）はにこやかに話した。特に「ここぞという場面を託すことができる」と、峯田大空（経営3・米沢興譲館高）の成長をあげた。今後に向けて、「ツメの甘い部分を改善し、確実に勝てるようにしたい」と決意を述べた。（山口由結・文4）

# 初の全国4強入り



創部以来初の全国4強入りを遂げた4人

全日本学生アーチェリー男子王座決定戦＝6月15～16日、静岡県・つま恋リゾート彩の郷

ワイルドカード決定戦を勝ち抜いた男子は、2回戦で関西学院大を下すと、準々決勝で優勝候補の同志社大に勝利した。準決勝で日体大に、3位決定戦で愛知産業大に敗れ、惜しくも銅メダルには届かなかったが、1964年の創部以来、最高順位となる4位で大会を終えた。

主将としてチームをけん引した貫井俊汰（文4・所沢中央高）は「部の歴史に新たな一ページを刻むことができ、とてもうれしく思う」と喜びの表情を見せた。（藤林利英・文1）

２年連続２位の水球部

# 2位 インカレでの勝利誓う

関東学生水球リーグ戦＝5月18日～6月16日、江東区・東京アクアティクスセンターほか

1次リーグを5勝2敗の3位で終えた専大は、上位4校による上位トーナメントに進出。筑波大に12―10の僅差で勝利し、日体大との優勝決定戦に臨んだが、11―21で敗れて2位となった。

主将の久保勝也（経営4・高知東高）は、「結果的には昨年と同じ順位だったが、日体大との対戦では、昨年よりも点差を縮めることができ、成長を実感できた」と語った。

今大会の結果、日本学生選手権（インカレ）の出場権を獲得した。日体大の27連覇を阻止すべく、久保主将は「リーグ戦での経験を生かし、インカレでは決勝まで勝ち抜き、日体大に勝利できるように全力で頑張りたい」と前向きにコメントした。（久保歌音・人間科学2）

## Clean Town 2024

多摩川河川敷を清掃する体育会の学生たち

7月6日に地域清掃活動「Clean Town 2024」が行われた。体育会地域貢献活動「ONE DAY TEAMMATE」の一環で、日ごろの感謝を込めて地域を清掃するイベント。コロナ禍などもあり、2019年以来5年ぶりの開催となった。厳しい暑さの下、学生たちはおそろいのTシャツを着用し、生田キャンパス周辺、向ケ丘遊園駅、多摩川河川敷の3地点でゴミを拾った。

ONE DAY TEAMMATEは、3月までに計13教室を開講予定。今後の日程や申し込み方法などはwebでご確認ください。（萩原健丸・経営3＝写真も）

【申し込み】